司書課程から

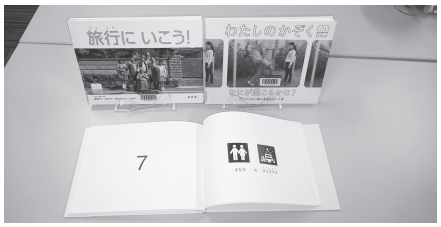
特別講義
LLブックについて―知的障害者の読書を支援する―

2019年6月20日に、大和大学の藤澤和子先生にお越しいただき、「LLブックについて―知的障害者の読書を支援する―」と題して、司書課程〈図書館概論〉及び司書教諭課程〈学習指導と学校図書館〉の受講生を対象に、特別講義をしていただきました。

知的障害のある人にとって、抽象的な概念やことばや物事の理解、見通しを立てること、コミュニケーション、読み書きなどに困難があり、読書や情報保障の面で不利な状況に置かれる現状があります。その上で、読書を楽しみ、必要な情報を得られるようにするために、マルチメディアDAISYのようなツールやLLブックなどの読みやすい本があることの紹介がありました。その中で、今回の特別講義では、LLブックに焦点を当てて、具体的な出版物を例に挙げながら、文章を易しくすることやピクトグラムの利用など、実際に行われている工夫点などの説明をしてくださいました。

ＬＬは，スウェーデン語でLättlästの略で，ＬＬブックは「やさしく読める本」という意味で、知的障害，自閉症，読み書き障害，移民などの読書が困難な人たちが読書を楽しみ、必要な情報を得ることができるための本です。重要なことは、やさしく読めることイコール幼い内容ではなく、生活年齢に応じた内容がわかりやすく書かれている本を指し、すべての人への情報保障がその主たる目的であるというお話でした。

受講生からは、「知的障害のある方の、読書や情報入手に対する関心がこんなにあるとは知らなかった」「ピクトグラムや文章表現などの工夫がよく考えられていることに驚いた」「LLブックについて、知っている人がもっと増えればよいと思った」などの感想が寄せられ、受講生に多くのことを学んでもらえた特別講義になりました。



ＬＬブック

（岩崎　れい　国際日本文化学科教授）

司書課程から

情報資源組織論

図書館においては、利用者が求める資料を適切に探すことができるように、図書館資料を単に所蔵するだけでなく、それらを整理する必要があります。情報資源組織論では、図書館において情報を整理する（組織する）方法の根幹である、目録と分類の機能と役割について概説します。それをもとに、現在の国内の図書館で使われている目録規則と分類法について解説します。司書課程を履修する学生は、この目録法、分類法の演習科目である「情報資源組織演習」を履修する必要があり、学生はこの「情報資源組織論」を履修することで、演習に向けて基礎を身につけることになります。

司書課程を履修する学生にとっては、目録と分類は、複雑な規則を理解してそれに沿って作業する必要があることもあり、少々難解な内容のようです。教える側としても、どのように教えれば効果的であるかは難しく思っています。色々と検討できるアプローチはありますが、現在のところは、テキストにしたがって、その内容を解説する講義形式で行っています。授業が単調となってしまいがちな点はありますが、テキストにある内容のみを扱うことで、学生に対して理解しておくべき内容、重要なポイントを明確に伝える狙いもあります。

この分野では、最近『日本目録規則2018年版』が完成し、それによって図書館における目録作成の方法が変わりつつあります。この授業では、これまでの目録規則を踏まえつつも、新しい目録規則についても取り扱っています。この新しい目録規則では、FRBRと呼ばれる、いわゆる目録作成の概念モデルが用いられています。これも一見難しく見える内容なので、丁寧に説明するように心がけています。

昨年度の本誌に掲載された「図書館情報技術論」の授業についての記事でも書きましたが、この「情報の組織化」においては、図書館にとどまらない大きな変化があり、メタデータ、オープンデータといった事項とより密接に関連するようになっています。そして、そこには様々な情報技術が関わるようになっています。授業で取り扱うことができる内容は限られていますが、学生がこういった今後重要となる事項を理解することも目的としています。

（鎌田　均　国際日本文化学科准教授）